

平成25年9月11日

No. 147

〈働く場をつくる〉

経営者にとって一番大事なことは、社員を採用し、雇用をつくることだと思います。雇用し、守ることが、会社にとっての社会貢献だと思います。働く場をつくり、やりがい、やりがいをつくり、社会に役立てることが人の幸せだと思います。働き、収入を得て家族や自分を楽しくする。旅行に行く。家も建てる。夢も実現する。会社は、社員を採用し、給料を支払い、夢も実現する。好循環になります。社員を採用し、雇用を守り為に経営をします。売上をつくり、利益を出す。社員一人ひとりの幸せをつくる。会社は雇用(社員)を守り為に利益を出さなければなりません。経営者も社員も、自分が家族が幸せにあり為に売上をつくり、利益を出さないと、自覚しなければなりません。どうしたら利益が出るか、7割が赤字だと言われています。働く場、雇用を守ることができなくなります。

「財務省の法人企業統計から算出した2015年度の労働分配率(労働分配率は付加価値額に対する給料の割合)は66.1%で、リーマンショック前には企業の利益が膨らんだ2007年度(65.8%)以来の低さとなった。」と日経新聞に載っていました。TKC(経営指標)では労働分配率55.8%となっています。経営分析では、労働分配率は低く、一人当たりの人件費は高く、と教えています。労働分配率が高いと会社の利益。圧縮すれば利益が減ります。一人当たりの人件費は高ければ、社員は喜びます。良くするには付加価値の高い仕事をする事です。会社の社会貢献の一番は雇用をつくること、守ることだと思います。ボランティア活動ではありません。付加価値の高い仕事をつくる。全員が理解する。全員が求める行動をする。それが仕事だと考えます。良い職場となります。働ける場をつくりましょう。

高林幸裕